

調査の結果

1 暮らし向き

問1 暮らし向き

お宅の暮らし向きは、今年の今ごろに比べて良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

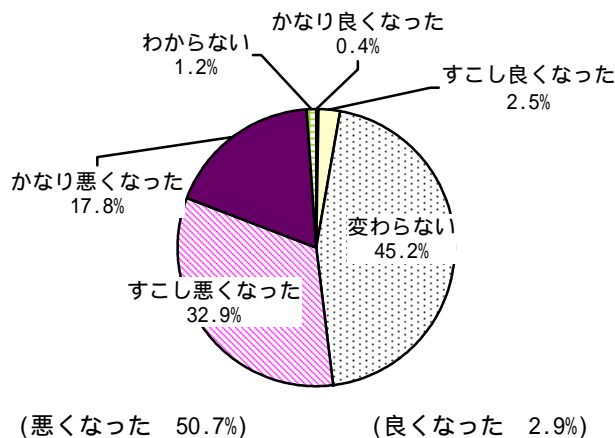
	(%)
1 かなり良くなった	0.4
2 すこし良くなった	2.5
3 変わらない	45.2
4 すこし悪くなった	32.9
5 かなり悪くなった	17.8
6 わからない	1.2

それは主にどういう理由によるものですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(回答者 = 694)	(%)
1 日常の生活費が増えた		16.9
2 収入が減った(働き手が減った)		54.6
3 営業不振、営業経費が増えた		8.2
4 教育費が増えた		7.6
5 特別事情による(結婚、出産、病気、災害など)		6.5
6 その他		5.6
7 わからない		0.6

暮らし向きが昨年に比べて「良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」と思うかを聞いたところ、「悪くなった」と答えた人の割合が50.7%（「すこし悪くなった」：32.9%、「かなり悪くなった」：17.8%）、「変わらない」が45.2%を占めている。

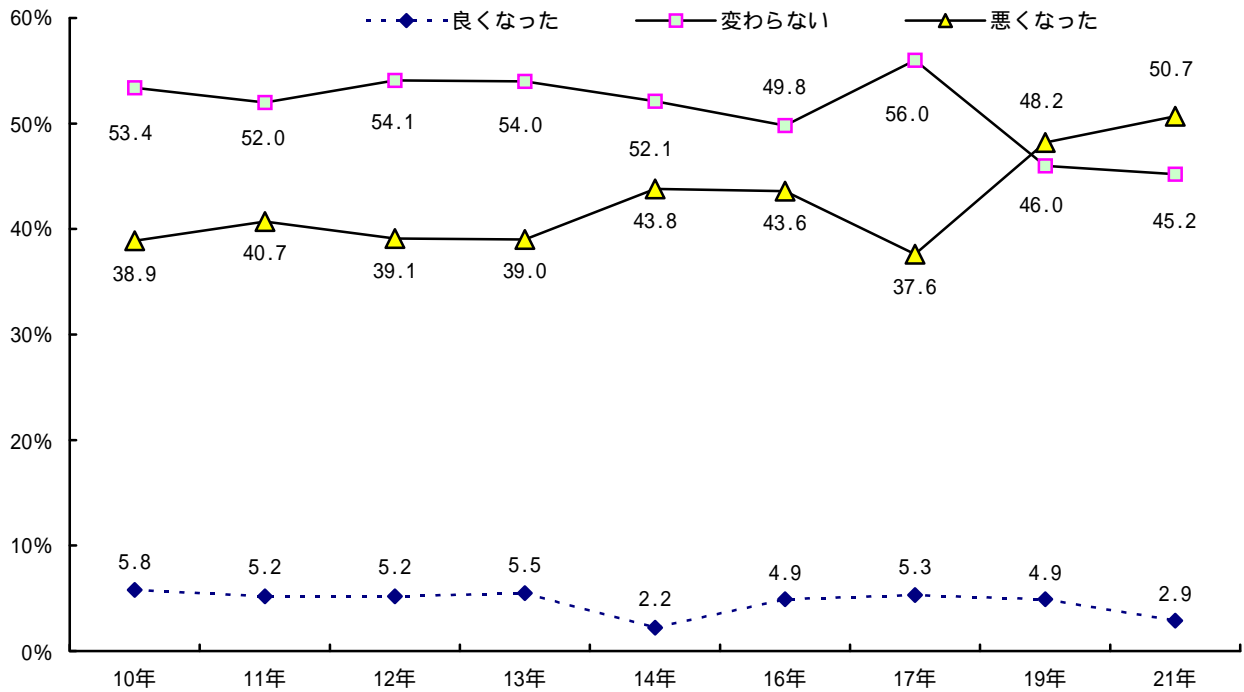
また、「良くなった」と答えた人の割合は2.9%（「かなり良くなった」：0.4%、「すこし良くなった」：2.5%）であった。



【経年変化】

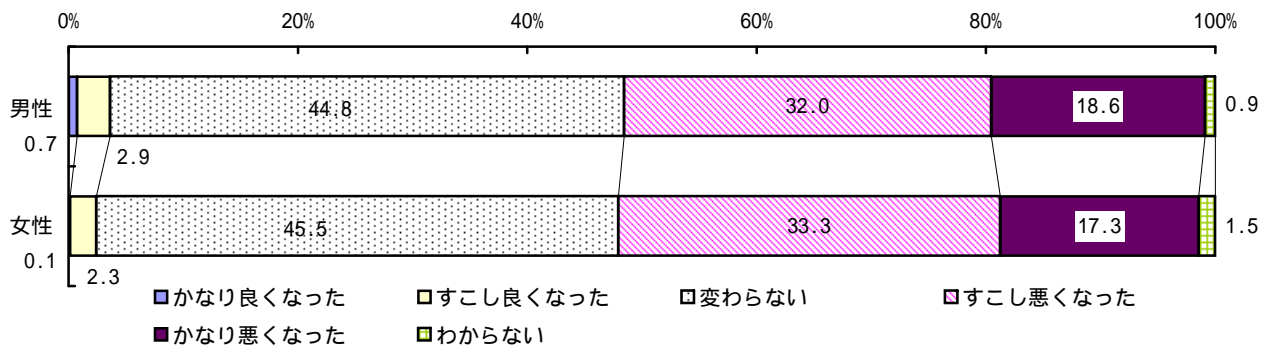
経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合が、平成10年調査以降では最も多く、特に平成17年調査以降では13.1%も増加しており、平成19年調査（以下「前回調査」という。）と比較しても2.5%増加している。

また、「良くなった」と答えた人の割合は前回調査より2.0%減少し、平成10年調査以降では、平成14年調査の2.2%に次いで2番目に低くなっている。



【性別】

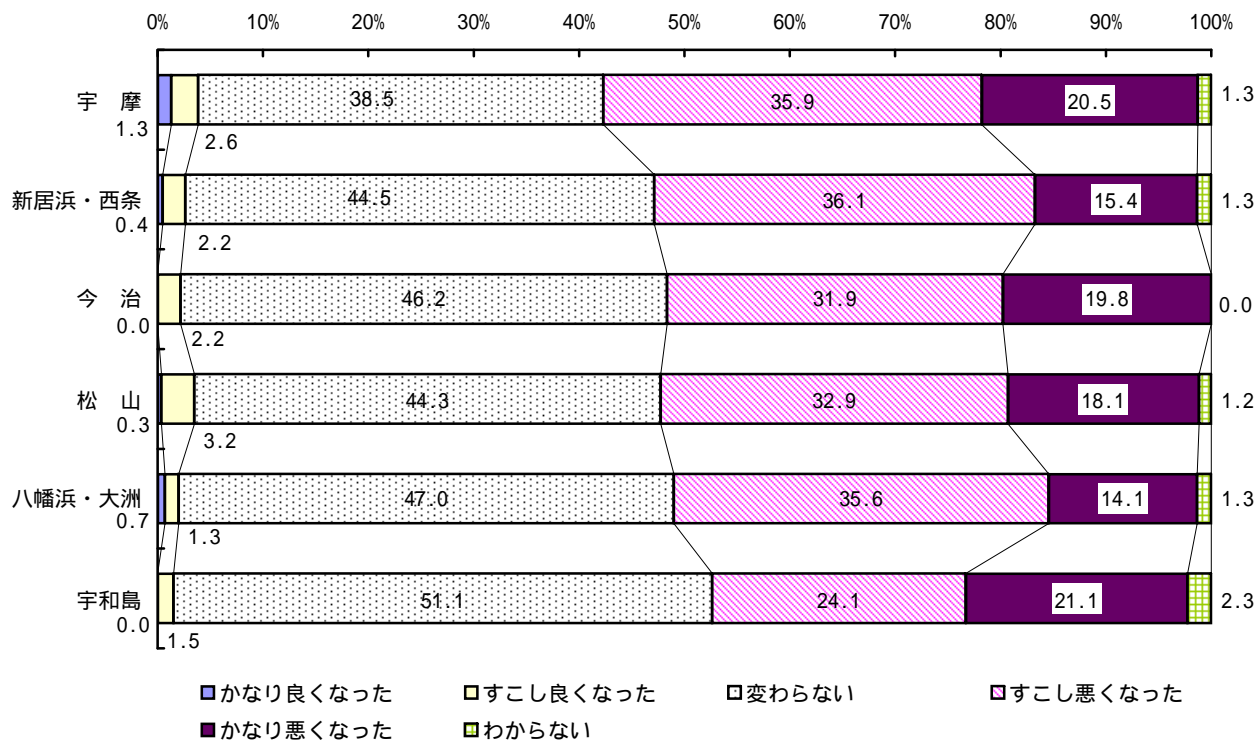
性別にみると、「悪くなった」と答えた人の割合は男女共に50%を超えている。（いずれも50.6%）一方、「良くなった」と答えた人の割合は、男性（3.6%）のほうが女性（2.4%）よりも1.2%多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域を除く全ての圏域で「悪くなった」と答えた人の割合が最も多く、中でも今治圏域では前回調査より13.3%増加している。宇和島圏域では「変わらない」が最も多い。

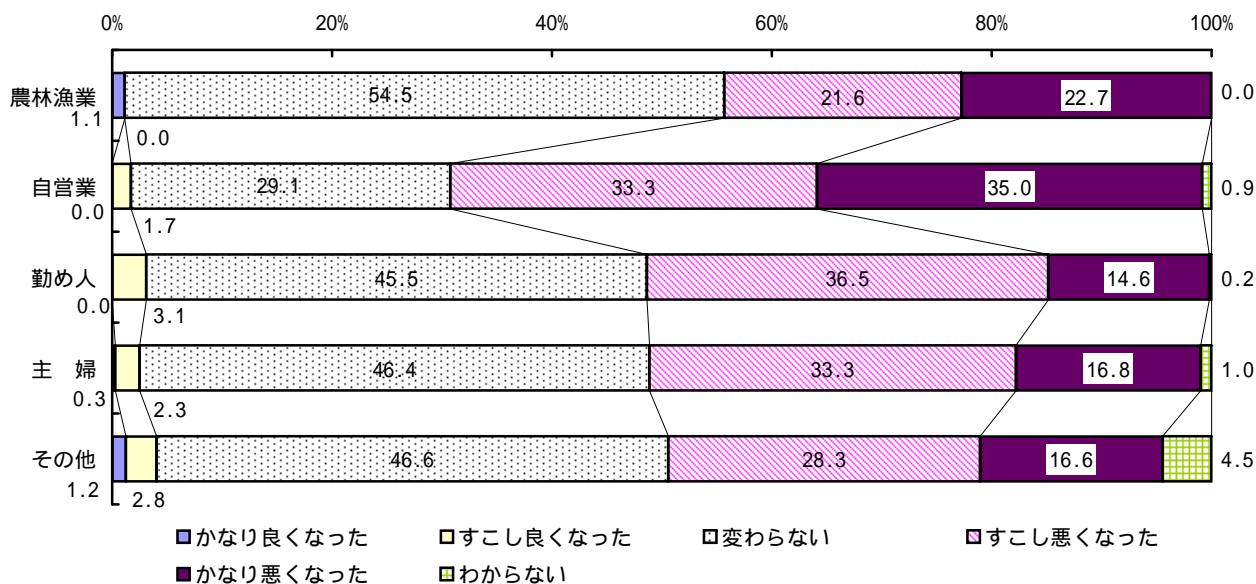
また、宇摩圏域では、「悪くなった」と答えた人の割合が56.4%（前回調査よりは13.4%減少）と他の圏域と比較して最も多くなっている一方、「良くなった」も3.9%と最も多くなっている。



【職業別】

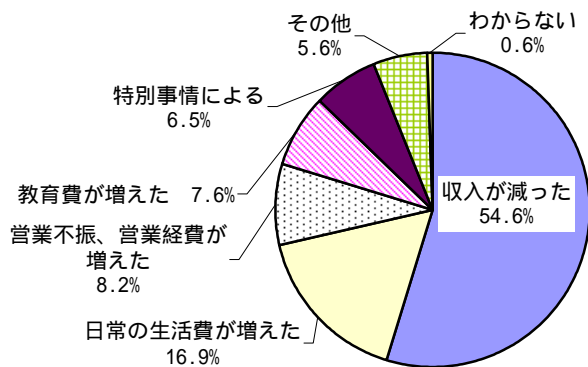
職業別にみると、自営業、勤め人、主婦で「悪くなった」と答えた人の割合が最も多く、中でも、前回調査に引き続き、自営業で特に多くなっている。（68.3%：前回調査より4.5%増加）

また、農林漁業、その他では「変わらない」と答えた人の割合が最も多くなっている。



《暮らし向きが悪くなった理由》

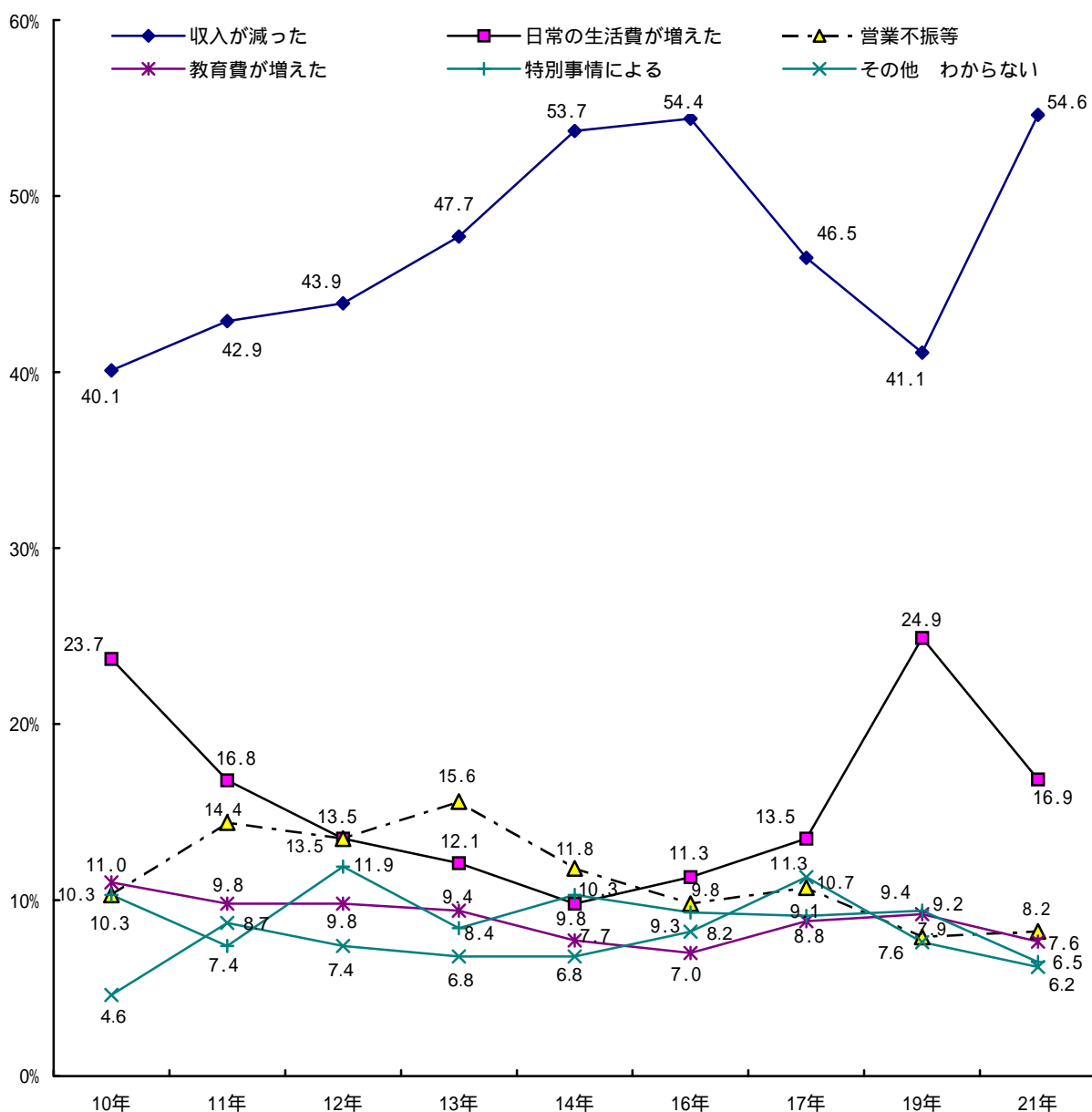
暮らし向きが「悪くなった」と答えた人に、その主な理由を聞いたところ、「収入が減った（働き手が減った）」（54.6%）が特に多く、以下「日常の生活費が増えた」（16.9%）、「営業不振、営業経費が増えた」（8.2%）、「教育費が増えた」（7.6%）、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」（6.5%）の順となっている。



【経年変化】

経年変化をみると、暮らし向きが悪くなった理由のうち「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合は、平成16年調査以降減少していたが、今回は前回調査よりも13.5%と大幅に増加し、平成10年調査以降最も多くなっている。

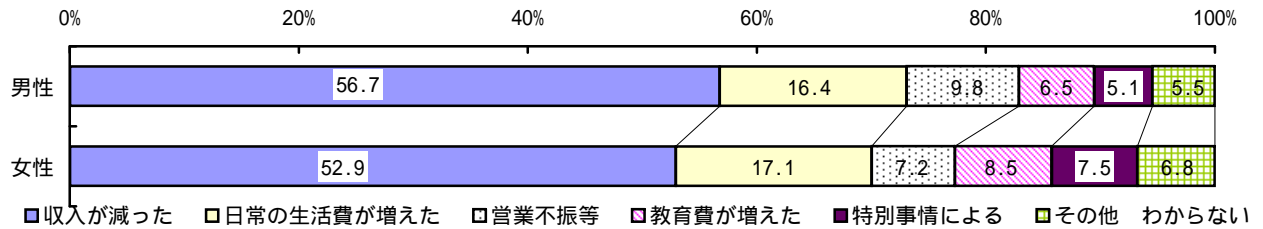
また、「日常の生活費が増えた」と答えた人の割合は前回調査より8.0%減少し、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」は前回調査より2.9%減少している。



【性別】

性別にみると、男女共に「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合が最も多く、男性で56.7%、女性で52.9%とどちらも50%を超えている。（前回調査と比較すると、男性で19.3%増加、女性で8.9%増加）

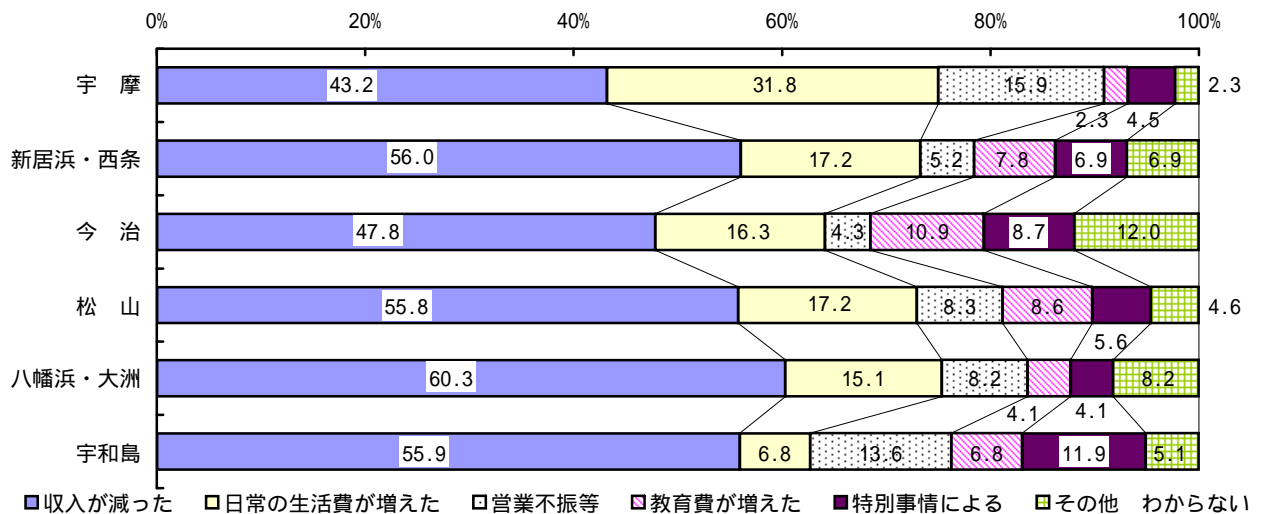
また、「日常の生活費が増えた」と答えた人の割合は、女性（17.1%）の方が男性（16.4%）よりも0.7%多く、「教育費が増えた」、「特別事情による（結婚、出産、病気、災害など）」も女性の方が多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合が最も多く、中でも新居浜・西条圏域（56.0%）、松山圏域（55.8%）、八幡浜・大洲圏域（60.3%）、宇和島圏域（55.9%）では50%を超えている。前回調査と比較すると、今治圏域を除く全ての圏域で増加しており、中でも松山圏域（16.4%増加）、八幡浜・大洲圏域（25.2%増加）で大幅に増加している。

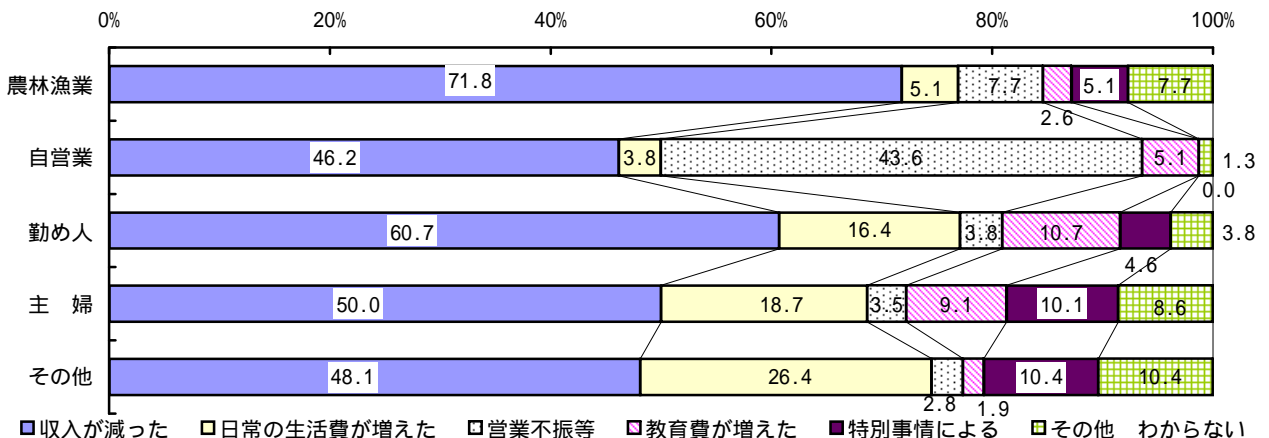
また、「日常の生活費が増えた」と答えた人の割合は宇摩圏域で、「営業不振、営業経費が増えた」は宇摩圏域、宇和島圏域で、それぞれ他の圏域と比較して多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「収入が減った（働き手が減った）」と答えた人の割合が最も多く、中でも農林漁業（71.8%）、勤め人（60.7%）では特に多くなっている。前回調査と比較すると、農林漁業で27.8%増加、勤め人で17.4%増加、その他で16.1%増加している。

また、「日常の生活費が増えた」と答えた人の割合はその他で、「営業不振、営業経費が増えた」は自営業で、前回調査と同様、それぞれ他の職種と比較して特に多くなっている。



問2 暮らし向きの変化

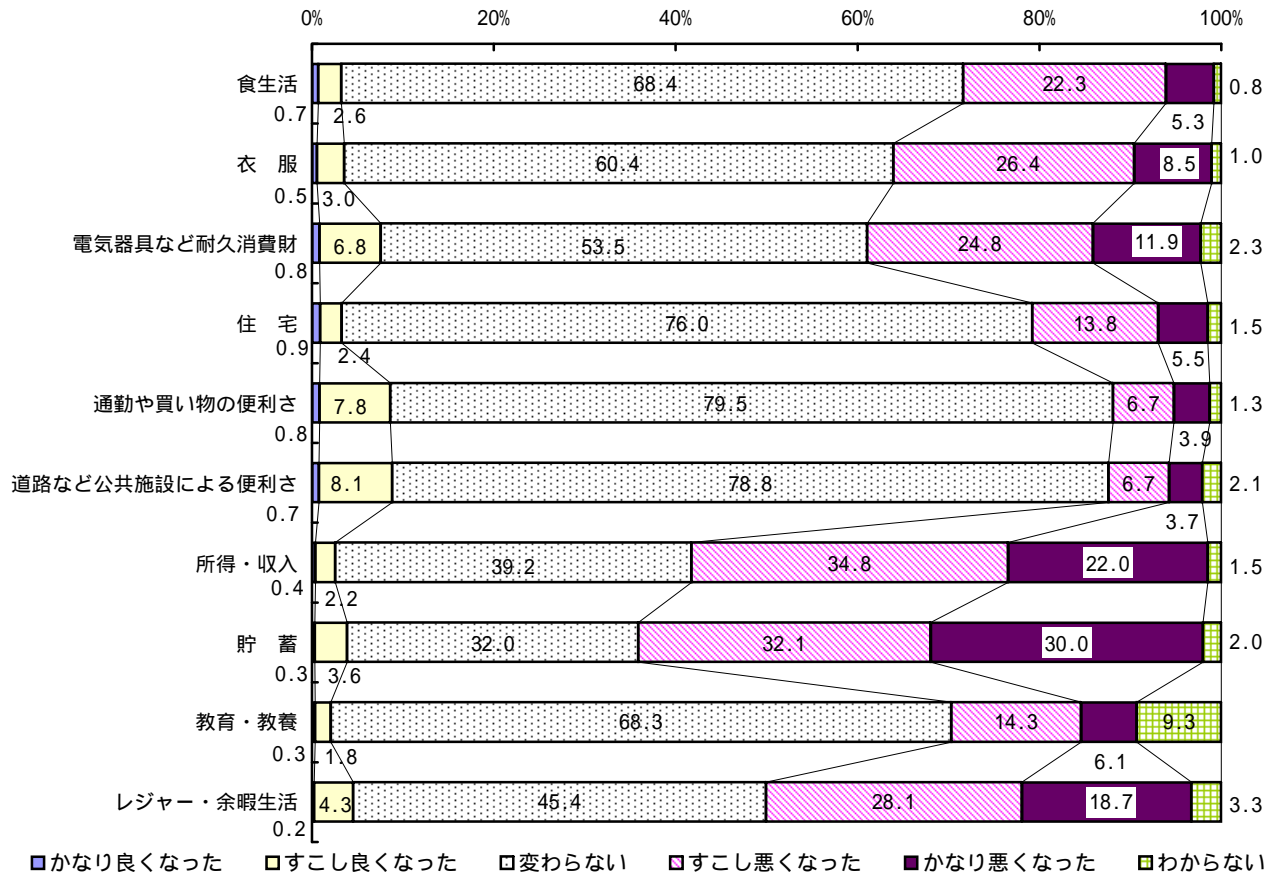
お宅の暮らしの中で、次の各項目は、今年の今ごろに比べ良くなりましたか。それとも悪くなりましたか。項目ごとにそれぞれ該当するもの一つずつ選んで番号を で囲んで下さい。

項 目	かなり良くなった	すこし良くなった	変わらない	すこし悪くなった	かなり悪くなった	わからない
	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
1 食生活	0.7	2.6	68.4	22.3	5.3	0.8
2 衣服	0.5	3.0	60.4	26.4	8.5	1.0
3 電気器具、家具、自動車 など耐久消費財	0.8	6.8	53.5	24.8	11.9	2.3
4 住宅	0.9	2.4	76.0	13.8	5.5	1.5
5 通勤や買い物の便利さ	0.8	7.8	79.5	6.7	3.9	1.3
6 道路など公共施設による便利さ	0.7	8.1	78.8	6.7	3.7	2.1
7 所得・収入	0.4	2.2	39.2	34.8	22.0	1.5
8 貯蓄	0.3	3.6	32.0	32.1	30.0	2.0
9 教育・教養	0.3	1.8	68.3	14.3	6.1	9.3
10 レジャー・余暇生活	0.2	4.3	45.4	28.1	18.7	3.3

(参考)	良くなった	変わらない	悪くなった
1 食生活	3.3	68.4	27.6
2 衣服	3.5	60.4	34.9
3 電気器具、家具、自動車 など耐久消費財	7.6	53.5	36.7
4 住宅	3.3	76.0	19.3
5 通勤や買い物の便利さ	8.6	79.5	10.6
6 道路など公共施設による便利さ	8.8	78.8	10.4
7 所得・収入	2.6	39.2	56.8
8 貯蓄	3.9	32.0	62.1
9 教育・教養	2.1	68.3	20.4
10 レジャー・余暇生活	4.5	45.4	46.8

暮らしの各面から10項目を取り上げ、昨年に比べて「良くなった」（「かなり良くなった」及び「すこし良くなった」と思うか、それとも「悪くなった」（「すこし悪くなった」及び「かなり悪くなった」と思うか）をそれぞれ聞いたところ、「所得・収入」、「貯蓄」及び「レジャー・余暇生活」の項目で「悪くなった」と答えた人の割合が最も多くなっている。（「所得・収入」：56.8%、「貯蓄」：62.1%、「レジャー・余暇生活」：46.8%）

また、「良くなった」と答えた人の割合は、「電気器具、家具、自動車など耐久消費財」（7.6%）、「通勤や買物の便利さ」（8.6%）、「道路など公共施設による便利さ」（8.8%）で比較的多くはなっているが、全ての項目で「悪くなった」を下回っている。

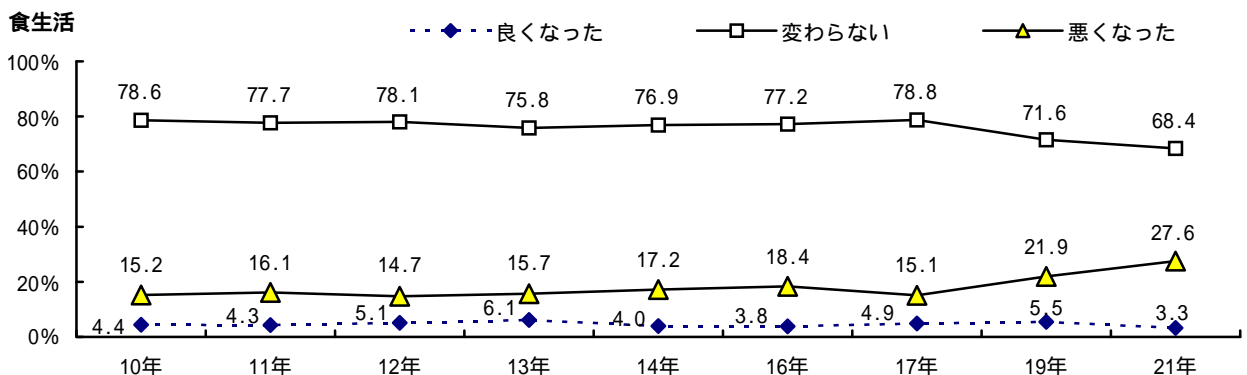


【経年変化】

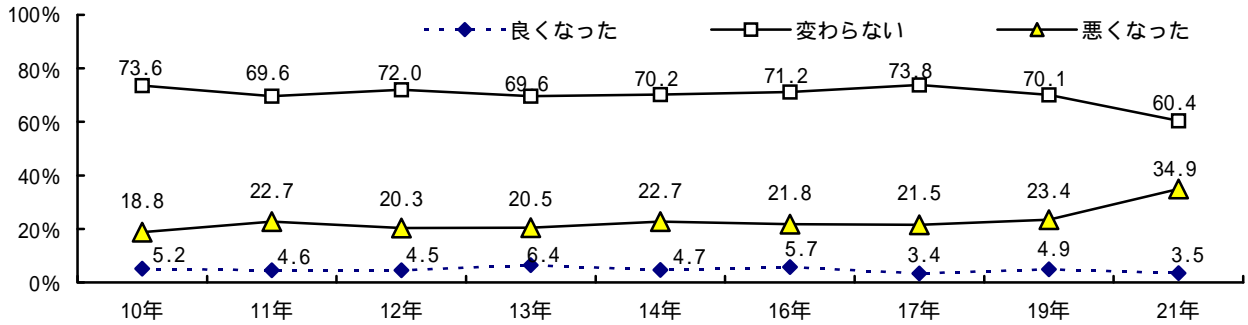
経年変化をみると、「悪くなった」と答えた人の割合が、全ての項目において平成10年調査以降で最も多くなっている。特に、「レジャー・余暇生活」の項目では、平成10年調査以降で初めて「変わらない」を上回って第1位となったほか、「所得・収入」、「貯蓄」では「悪くなった」が「変わらない」を大きく上回っている。

この他、平成10年調査と比較すると、「衣服」（16.1%増加）、「所得・収入」（20.2%増加）、「貯蓄」（15.3%増加）、「レジャー・余暇生活」（17.5%増加）で大幅に増加している。

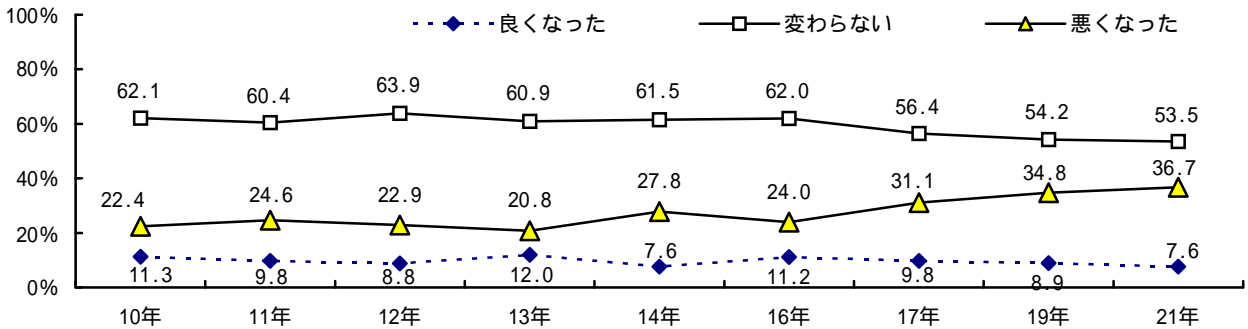
また、前回調査と比較すると、「悪くなった」と答えた人の割合は、全ての項目で増加しており、中でも「衣服」（11.5%増加）、「所得・収入」（8.5%増加）、「貯蓄」（7.9%増加）、「レジャー・余暇生活」（9.4%増加）で大幅に増加している。



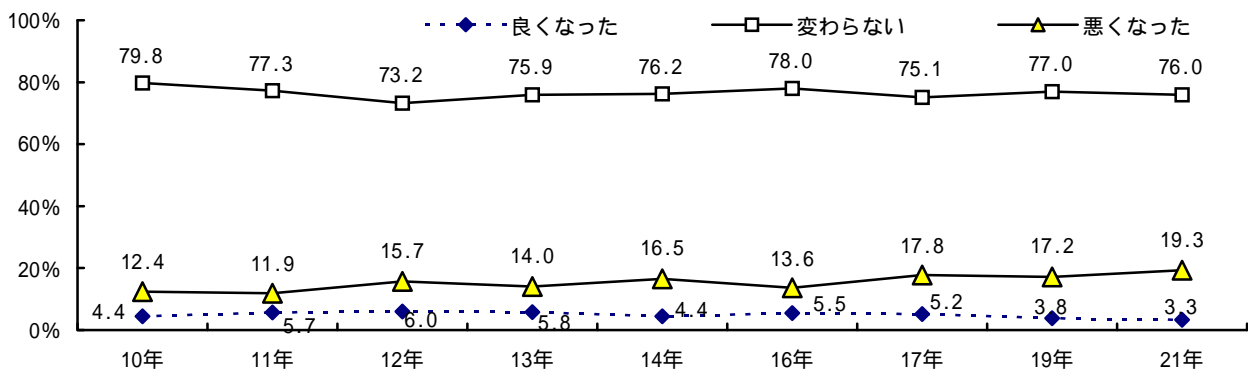
衣服



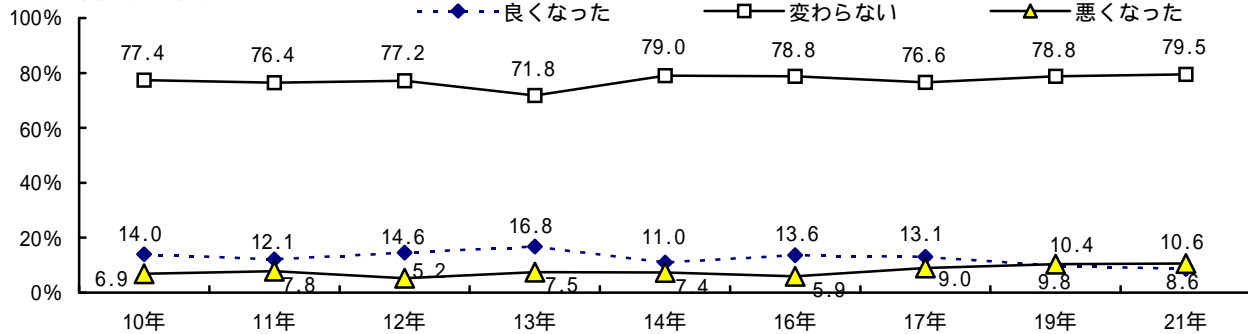
電気器具など耐久消費財



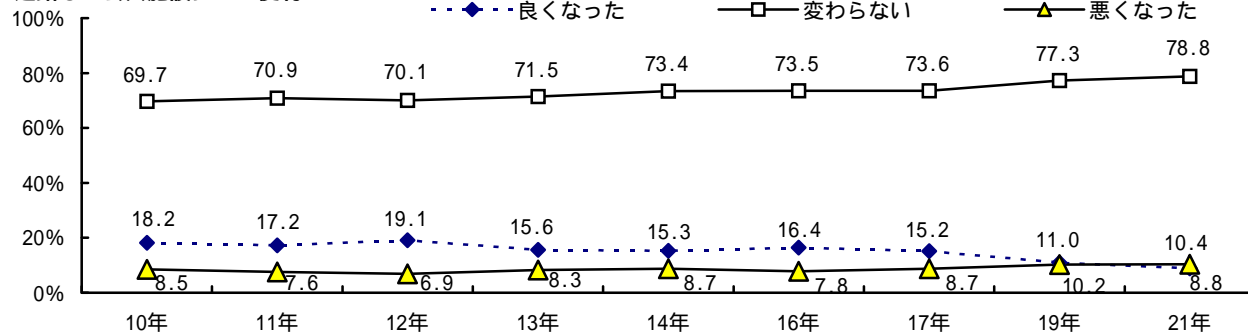
住宅



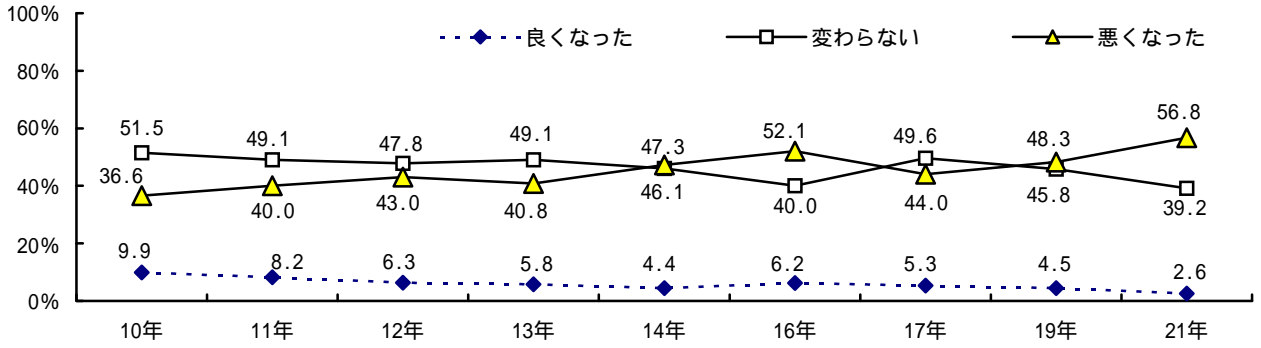
通勤や買い物の便利さ



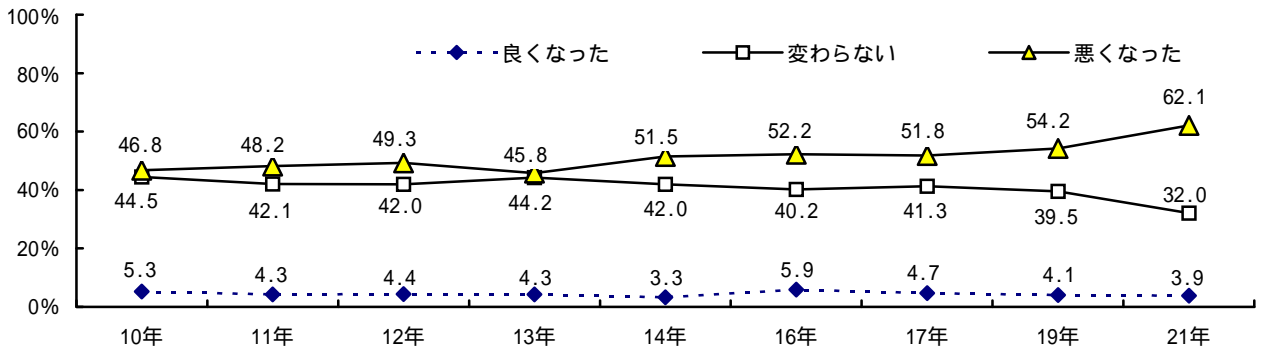
道路など公共施設による便利さ



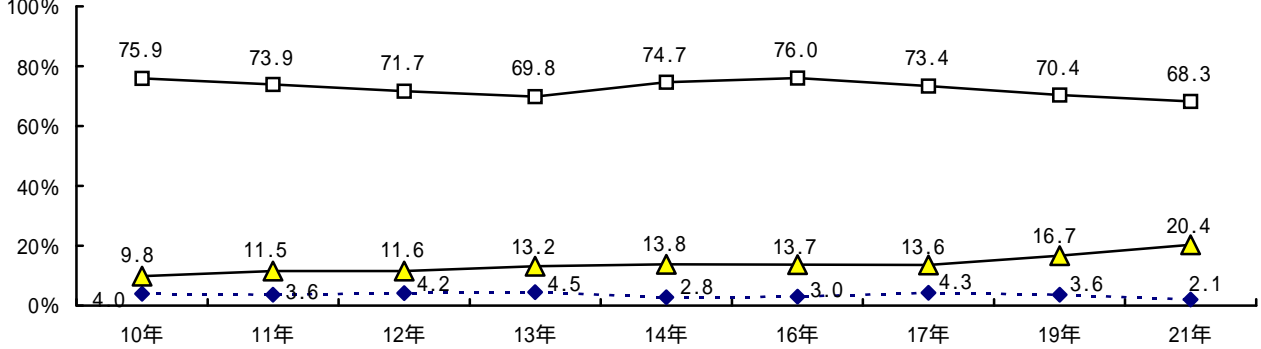
所得・収入



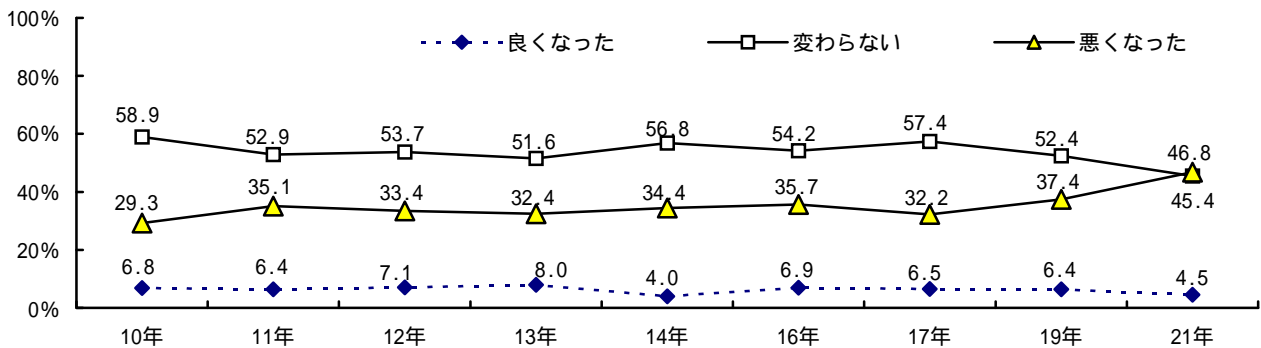
貯蓄



教育・教養



レジャー・余暇生活



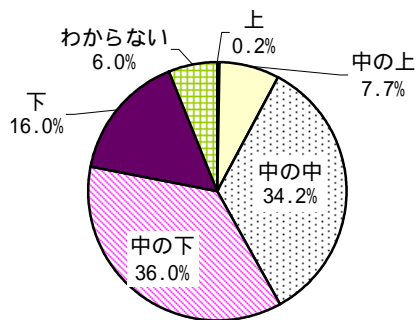
問3 暮らし向き の程度

お宅の暮らしの程度は、世間一般からみて、次のどれに入ると思いますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 上	0.2
2 中の上	7.7
3 中の中	34.2
4 中の下	36.0
5 下	16.0
6 わからない	6.0

暮らし向きの程度を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」と答えた人の割合が36.0%で最も多く、「中の上」(7.7%)及び「中の中」(34.2%)と合わせて77.9%の人が中流意識を示している。

また、「上」と答えた人の割合は0.2%、「下」と答えた人の割合は16.0%であった。

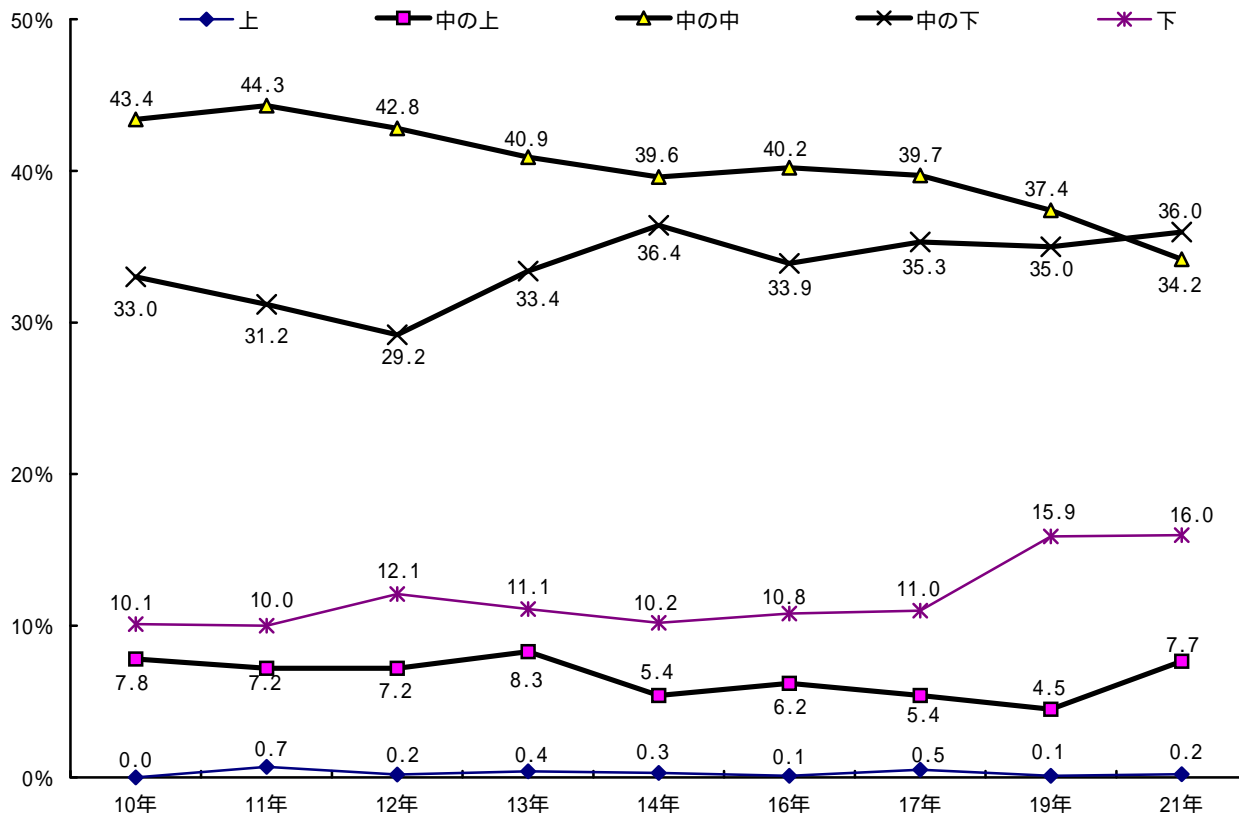


(中 77.9%)

【経年変化】

経年変化をみると、暮らし向きに対する県民の中流意識は引き続き強く、いずれの調査年においても、80%程度の方が、自分の家庭の暮らし向きの程度を中程度だと評価しており、今回調査では、「中」と答えた人の割合は、前回調査に比べて1.0%増加している。

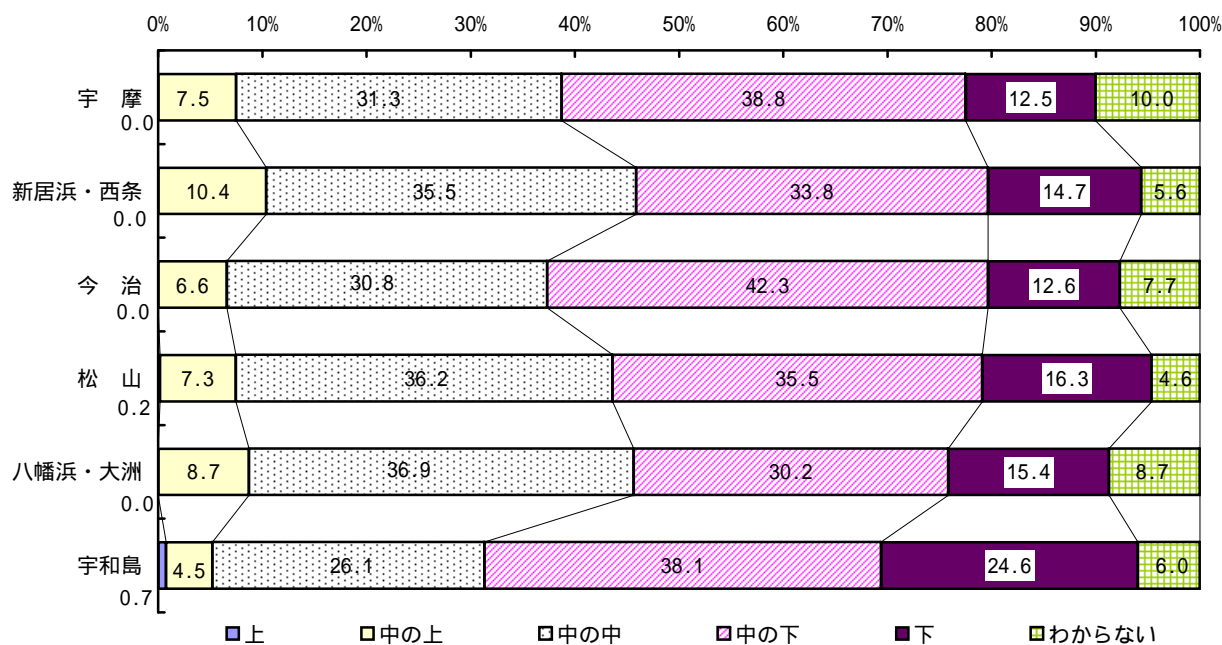
しかし、前回調査までは、「中の中」と答えた人が最も多かったが、今回は、「中の下」と答えた人の割合が「中の中」を上回った。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域、松山圏域、八幡浜・大洲圏域では「中の中」と答えた人の割合が、宇摩圏域、今治圏域、宇和島圏域では「中の下」が最も多くなっている。

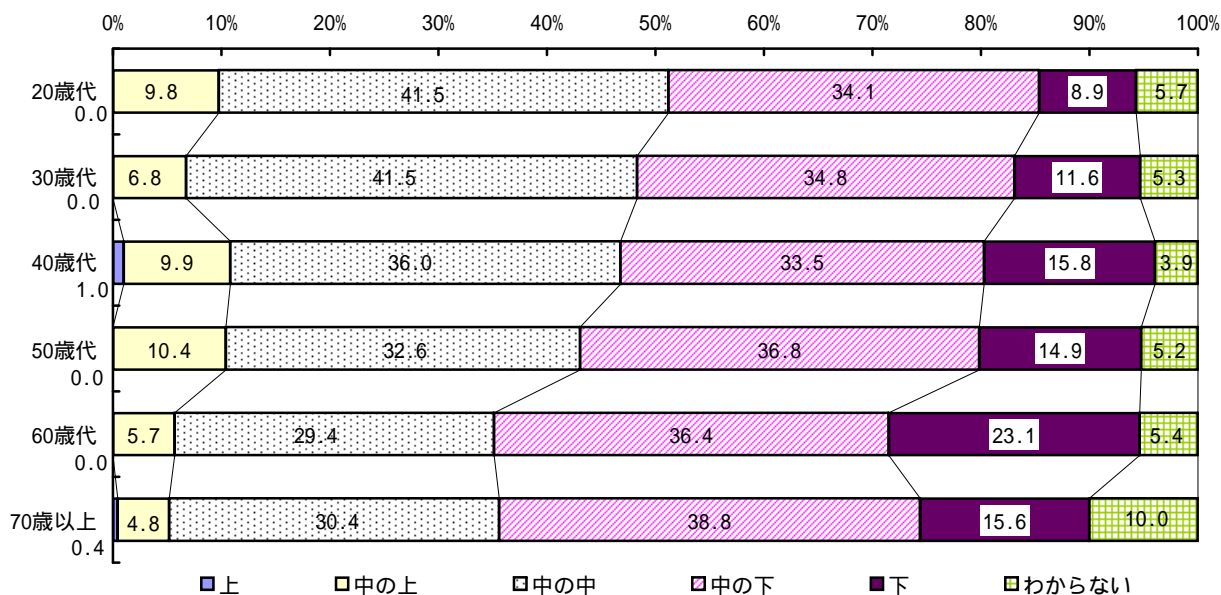
また、「下」と答えた人の割合は宇和島圏域（24.6%：前回調査より6.8%増加）で、「上」及び「中の上」の合計は新居浜・西条圏域（10.4%：前回調査より6.8%増加）でそれぞれ他の圏域と比べて多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代から40歳代では「中の中」と答えた人の割合が、50歳代以上では「中の下」が最も多くなっている。中でも20歳代では「中の中」が前回調査より12.5%増加している。

また、「下」と答えた人の割合は60歳代（23.1%：前回調査より9.7%増加）で特に多くなっている。



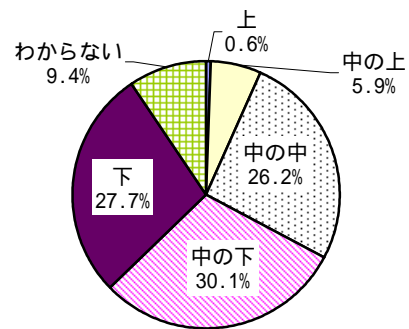
問4 資産の程度

お宅の資産（土地、家屋、預貯金等）は、世間一般からみて、次のどれに入りますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 上	0.6
2 中の上	5.9
3 中の中	26.2
4 中の下	30.1
5 下	27.7
6 わからない	9.4

資産（土地、家屋、預貯金等）を世間一般からみてどの程度だと思っているかを聞いたところ、「中の下」と答えた人の割合が30.1%で最も多く、「中の中」（26.2%）及び「中の上」（5.9%）と合わせて62.2%の人が中流意識を示しているが、暮らし向きの程度（中：77.9%、下：16.0%）と比較すると評価が低い。

また、「上」と答えた人の割合は0.6%、「下」と答えた人の割合は27.7%であった。

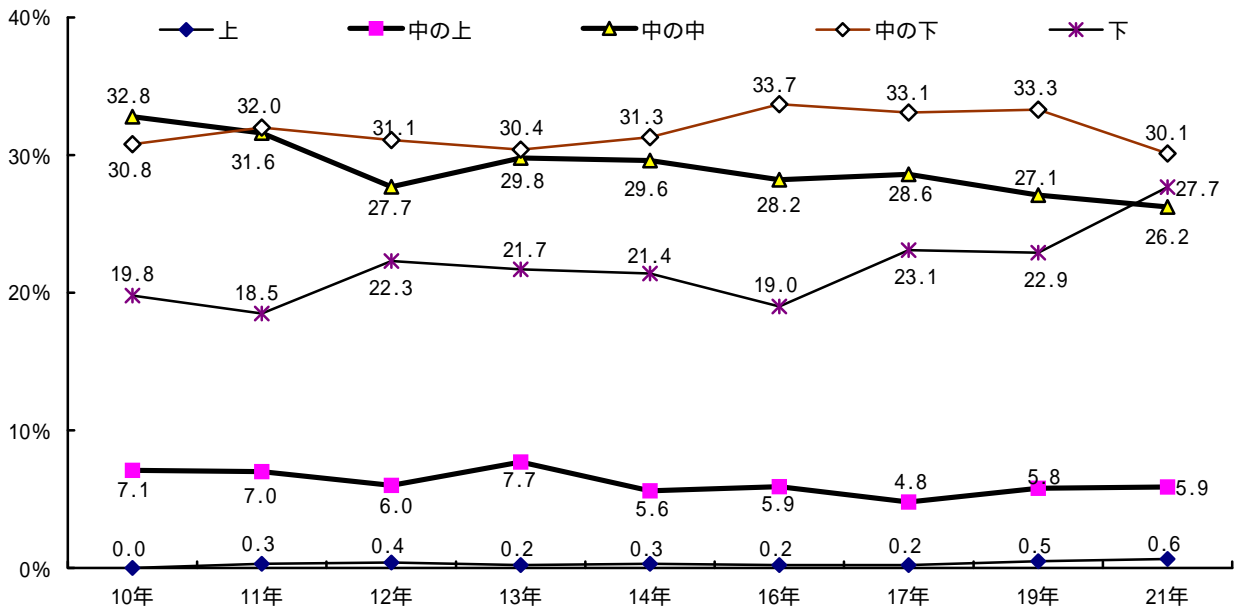


(中 62.2%)

【経年変化】

経年変化をみると、資産に対する県民の中流意識は引き続き強いが、前回調査と比較すると「中」と答えた人の割合は4.0%減少している。

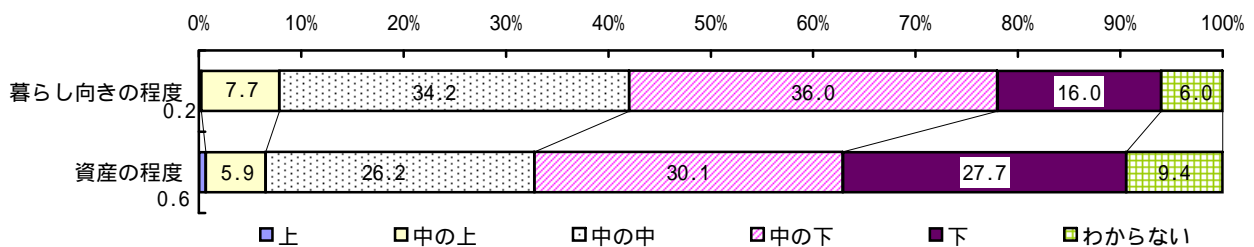
また、「下」と答えた人の割合が前回調査より4.8%増加し、平成10年調査以降最も多くなっており、「中の中」を上回って第2位となった。



【暮らし向きの程度と資産の程度】

暮らし向きの程度と資産の程度の意識を比較してみると、どちらも「中の下」と答えた人の割合が最も多くなっている。（暮らし向きの程度の方が5.9%多い。）

また、「中」と答えた人の割合は暮らし向きの程度の方が15.7%、「下」は資産の程度の方が11.7%多くなっている。



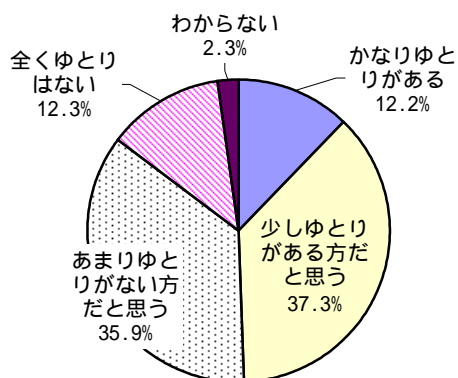
問5 生活のゆとり感

あなたは、普段の生活で時間的なゆとりがある方だと思いますか。それともない方だと思いますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 かなりゆとりがある	12.2
2 少しゆとりがある方だと思う	37.3
3 あまりゆとりがない方だと思う	35.9
4 全くゆとりはない	12.3
5 わからない	2.3

普段の生活における時間的なゆとりの有無について聞いたところ、「ゆとりがある」と答えた人の割合は49.5%（「かなりゆとりがある」（12.2%）、「少しゆとりがある方だと思う」（37.3%））であった。

また、「ゆとりがない」は48.2%（「あまりゆとりがない方だと思う」（35.9%）、「全くゆとりはない」（12.3%））であり、時間的なゆとりがあると感じている人とないと感じている人は、ほぼ同じ割合となっている。



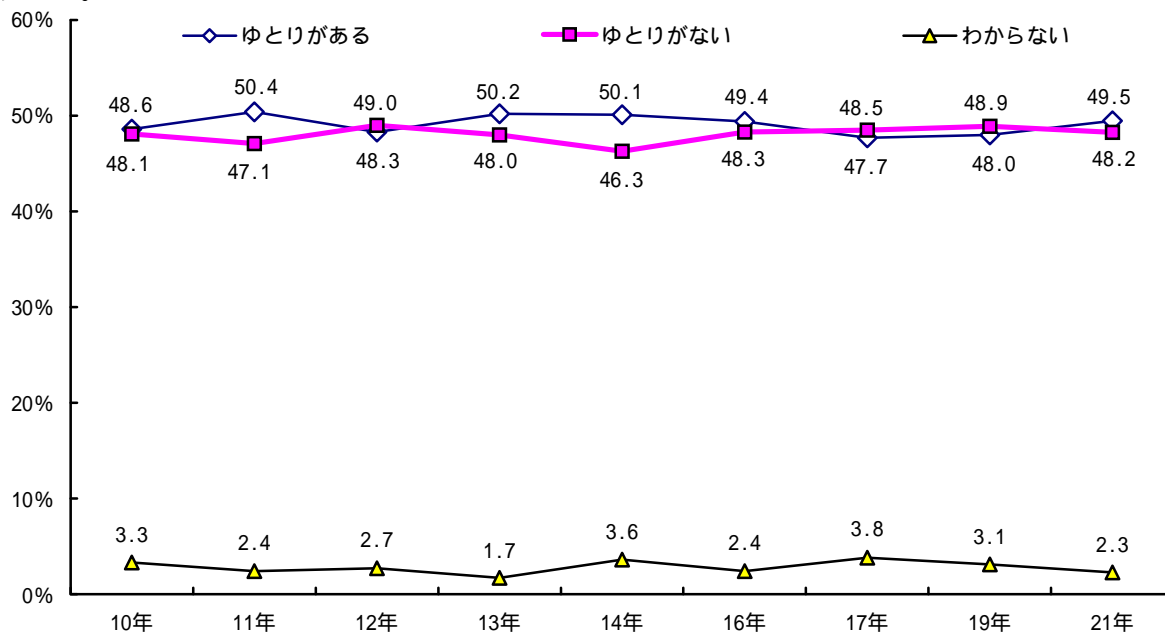
(ゆとりはない 48.2%)

(ゆとりがある 49.5%)

【経年変化】

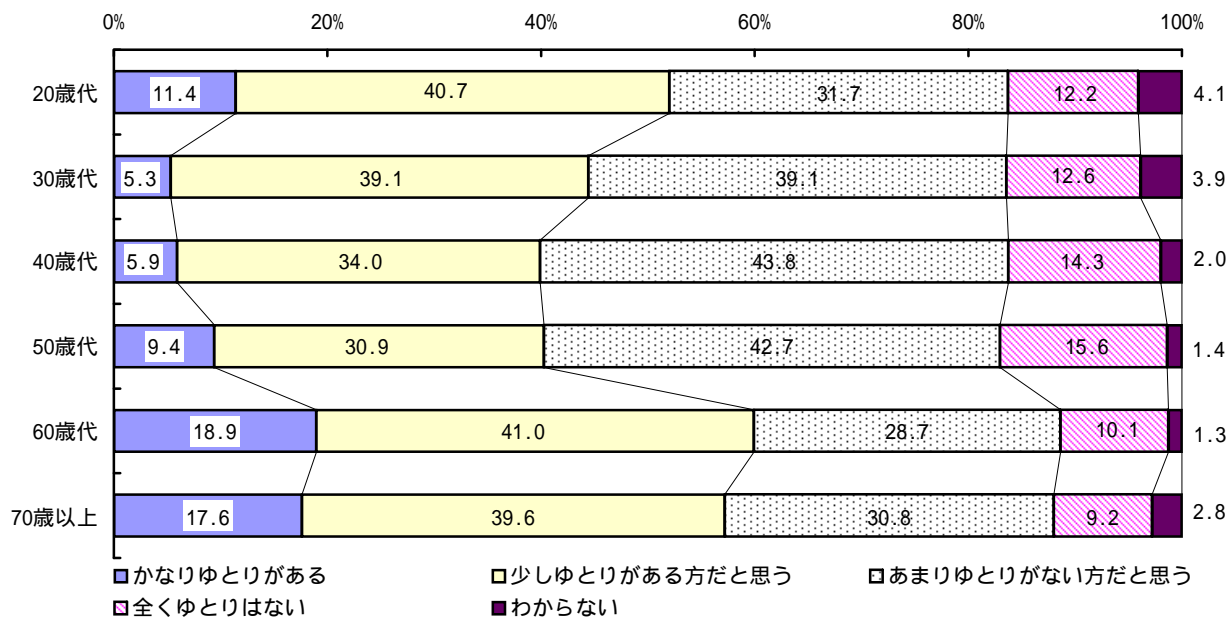
経年変化をみると、「ゆとりがある」と答えた人の割合は平成13年調査以降微減傾向にあったが、今回は前回調査より1.5%増加し、わずかではあるが「ゆとりがない」を上回った。

また、逆に「ゆとりがない」は平成14年調査以降微増傾向にあったが、今回は前回調査より0.7%減少した。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代、60歳代、70歳以上では「ゆとりがある」と答えた人の割合の方が多く、30歳代から50歳代では「ゆとりがない」の方が多くなっている。特に「ゆとりがある」は60歳代以上（60歳代：59.9%、70歳以上：57.2%）で多く、「ゆとりがない」は40歳代（58.1%）、50歳代（58.3%）で多くなっている。



【職業別】

職業別にみると、主婦、その他では「ゆとりがある」と答えた人の割合が60%以上で、「ゆとりがない」を大きく上回っており、農林漁業、自営業、勤め人では「ゆとりがない」の方が多くなっている。

また、自営業では「ゆとりがない」と答えた人の割合が前回調査より5.7%減少（「あまりゆとりがない方だと思う」（9.7%増加）、「全くゆとりはない」（15.4%減少））しており、農林漁業では「ゆとりがある」が前回調査より6.9%減少（「かなりゆとりがある」（2.3%減少）、「少しゆとりがある方だと思う」（4.6%減少））している。

